

下妻二高校1年生「しもつま未来ビジョン」政策提言発表会を開催

1月18日



プレゼンテーションを行う下妻二高生

下妻第二高等学校の1年生は、総合的な探究の時間を利用して、本市のまちづくりに関する研究を進めてきました。1月18日には、この取組みを総括する発表会を開催し、市長をはじめ、市職員を前にプレゼンテーションを行いました。

当日は学年の代表8班(30人)がそれぞれの提言について発表しました。内容は「日用品等の移動販売の機能拡充」「多言語標記の充実による外国人に優しい街づくり」「SNSの更なる活用による積極的な市のPR」などで、生徒たちは市民にプラスになることは何か、どうすれば街を活性化できるかなどの視点から、現在の市内の問題点などについて論じていました。

同校1年の小林友哉さんは「これからも下妻の未来について考えていきたいです」と話していました。

スポーツ & カルチャー フラッシュ がんばる小・中学生!!

中学生

■茨城県新人体育大会 県西地区大会

陸上2年男子110mH

第1位 千代川中学校2年 青柳 新

陸上共通女子走高跳

第1位 千代川中学校1年 青柳 乃愛

柔道女子 第1位 下妻中学校2年 猪瀬 風香

第1位 下妻中学校2年 堀江 柚希

第1位 下妻中学校1年 相澤 真帆

ソフトテニス女子団体 優勝 下妻中学校

卓球男子団体 優勝 東部中学校

卓球女子個人シングルス

優勝 東部中学校2年 木沢 琴音

水泳男子100m自由形

第1位 千代川中学校2年 中村 仁紀

■茨城県新人体育大会

陸上共通女子走高跳

第1位 千代川中学校1年 青柳 乃愛

卓球女子個人シングルス

優勝 東部中学校2年 木沢 琴音

小学生

■令和4年度茨城県スポーツ少年団スポーツ大会

柔道小学2年生男女の部

優勝 大宝小学校2年 霜村 奏栄(高道祖道場)

■令和4年度茨城県スポーツ少年団スポーツ大会

バレーボール競技

優勝 スマイルキッズスポーツ少年団

・上位大会あり：第20回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会

(令和5年3月24日～27日)

有料広告欄

地域活性化 起業人だより

第2回

品田 宜志



地域活性化企業人として下妻市まちメディア「サヌマー」の運営をしております品田宜志です。

早いもので、最初のご挨拶からあっと言う間に約半年ほど経ってしまいましたが、下妻を盛り上げるべく、引き続きサヌマーの企画運営を務めてまいります。高校卒業以来10数年ぶりの地元に関わることになり、街中の風景などが大きく変容したところに寂しさを覚えるとともに、昔から変わらずに残っているものの尊さを感じている今日この頃です。

「サヌマー」では、市内在住者を始め、今は下妻を離れてしまった出身者の方々や、かつて下妻の各校で学んでいた方々、お仕事を通じて下妻と関わりのあった方々など、今まで見ていなかった関係性を次々と発掘しており、少しずつではありますが、盛り上がりの兆しが見えてきています。日々、着実にサヌマーを知ってくださる方々も増加傾向にあり、SNSのフォローしてくださる方々の合計がここ数カ月で2000名を超えることとなりました。下妻市の人口規模である40000という数字を目指してこれからも市内外の方々への有益な情報をお届けできるように、努力して参ります。

まだフォローされていない方はぜひフォローと応援の程よろしくお願いたします!



サヌマーは『下妻市』の等身大な日常や「なつかしい」を集めお届けしながら、これからの「下妻らしさ」を創るメディアです。

Twitter



Instagram



Note



問 都市整備課 ☎45-8128 FAX 43-2945

宗任神社で「おめざめ祭」と「追儺祭」を開催

1月11日

市内宗道の宗任神社で11日、大みそかから眠りについでいる神様を起こすための「おめざめ祭」と日本一早いといわれる「追儺祭」(豆まき)が行われ、地元住民などが集まり、一年の無病息災を祈りました。この日は朝から「おめざめ祭」が午後からは「追儺祭」が順次行われ、宮司など関係者や、拜殿でご祈祷を受けた崇敬者が豆をまき、厄を払いました。

宗任神社は、平安時代末期、東北地方で起こった前九年の役で活躍した安倍宗任を祭神とし、1109年創建と伝わっています。境内の森は、茨城の自然100選に選ばれています。



午後5時半頃から行われた追儺祭の様子

小正月の伝統行事・高道祖地区「どんど焼き」を開催

1月14日

無病息災、五穀豊穡を願い小学校のわらと竹で組んだ山にしめ縄やだるまなどを積み上げて燃やす小正月の伝統行事「どんど焼き」が「青少年を育てる下妻市民の会 高道祖支部」が主催して開催されました。会場となった旧養豚センター跡地(小貝川祝橋東側)には地元住民などが集まり、燃え上がる炎に1年の無事を祈りました。

同会支部長の根本浩さんは「昭和62年から続いている伝統行事です。今後は、若い世代にも参加してもらえよう取組みを進めていきたいと思っています」と話していました。



どんど焼きの炎を見つめる参加者